民謡とわらべうたで巡る

# ふるさと唄紀行

監修●宮城葉子
イラスト●本原健至

県内各地に残る民謡やわらべうたは、懐かしい風景や当時の暮らしぶりを伝えてくれます。うちな～の唄が誘う地域の旅へ、まじゅん行かな（さぁ出かけましょう）！

## 与那国島のわらべうた「雨や降いひんな」（ニチヌサンアイティ）

### 親を思う子らの切なる願いが込められた「涙のわらべうた」

人頭税時代の与那国島で、重い労働を課せられた両親を思う子供たちの切ない心情を唄ったわらべうたです。一六〇九年に薩摩が琉球に侵入した後、一六三七年には琉球王国の十五歳から五五歳までの男女一人ひとりに人頭税が課せられました。中でも宮古や石垣、与那国地方の人頭税は過酷だったといわれています。

米や織物、黒糖や唐芋などを年貢として納めるため、大人たちは夜明けから夜遅くまで働きました。年長の子は下の子の面倒を見たり、労働の手伝いをするなどして両親を助けました。

雨が降ると作物の成長が遅れて親たちの負担が増すことを知っていた子供たちは、「どうか雨よ降らないで」と祈るような気持ちで天を仰いだことでしょう。物悲しい曲調と「たんでー（お願い）」という歌詞が涙を誘います。子供たちは、過酷な労働で「生きることも死ぬこともできない」親の苦しさを表現したかったのかもしれません。

与那国島には、人頭税の人減らしのために妊婦が崖を飛び越えさせられた久部良バリや、体の弱った者や老人を間引くために男子が召集され、遅れた者が惨殺されたといわれるトゥング田の悲劇が今も伝えられています。過酷な歴史が綴られたわらべうたは子が親を思う愛情にも満ち、地元の小学校などで歌い継がれています。

幼い姉妹の子守をして人頭税に苦しむ両親を支える子

「雨や降ぃひんな」
（ニチヌサンアイティ）

北ぬ　さんあぃてぃぬ　たありん
牛ぬ鞍やー　羊に掛てぃ
馬ぬ鞍やー　牛に掛てぃ
縦糸足らーぬ　横糸足らぬーりゃ
雨ーや　降いひんな
たんでー　たんでー

鶏ぬ　とぅてぃとぅる　でぃーぶん
朝露踏み　夜露浴ーてぃ
天ぬ声でぃ　支配者ぬ声でぃ
んにんならーぬー
ぬてぃんならーぬーりゃ
雨ーや　降いひんな
たんでー　たんでー

（標準語訳）
北のがじゅまるの木の下で
牛の鞍は山羊にかけて
馬の鞍は牛にかけて
（織物の）縦糸も足りない
横糸も足りない
（働く両親のために）雨よ降らないで
お願い　お願い

鶏が時を告げるころ
朝露を踏み　夕露を浴びて帰る両親
天の声　支配者の命令（薩摩・人頭税）に
生きることもできない
死ぬこともできない
雨よ降らないで
お願い　お願い

※わらべうた調査・編集●宮城葉子



雄々しい自然景観が魅力の日本最西端の町

# 与那国町

■面積 ----- 28.95㎢
■人口 ----- 1,650人（平成20年1月1日現在）
■町鳥 ----- メジロ
■町魚 ----- カジキ
■町花 ----- ユリ
■町木 ----- クバ
■町花木 --- サルスベリ
■町蝶 ----- ヨナグニサン

## 台湾との貿易で栄えた国境の島「与那国」

西崎の夕日

与那国島は小さな島でありながら、山や谷、湿地や台地など起伏に富んだ地形をしています。海岸線に砂浜は少なく、断崖や岩場が多いのが特徴。

台湾との距離はわずか111kmという国境の島で、海洋民族として台湾との直接貿易で栄えた歴史を持ち、女酋長サンアイイソバに治められていたという伝説も残っており、沖縄の島々の中でも特に個性的な地域です。

## 農業や水産業のほか、個性豊かな特産品も

サトウキビや水稲などの農業、肉用牛の生産などの畜産業が盛んなほか、豊富な水産資源にも恵まれており、カジキの水揚げ量では県内随一。このほか、台湾から輸入された原料を用いるアスファルトや生コンの工場もあり、島の経済発展に寄与しています。

また、アルコール度数60度の花酒やクバの葉餅、長い歴史を持つ与那国花織など、個性豊かな特産品もあります。

カジキ

## 希少動物が息づく「祭りの島」

与那国馬

与那国は、日本に8種残る在来馬のひとつで日本最小の与那国馬、県天然記念物で日本最大の蛾のヨナグニサンが生息する自然豊かな地であり、豊年祭をはじめ、年間40以上もの祭りが行われる信仰の島でもあります。

また、与那国の特色として、断崖絶壁の東崎（あがりざき）や日本最西端の西崎（いりざき）の他、巨大な岩で造られた海底遺跡、立神岩や軍艦岩などの男性的な景観があります。